第 327 回京都市考古資料館文化財講座／アスニー京都学講座　　2022 年 6 月 25 日
連続講座　鎌倉時代の京都 第 5 回

時宗寺院・金光寺

京都市考古資料館館長　山本雅和

はじめに

金光寺は､鎌倉時代後期の正安３年（1301）に七条東洞院に建立された時宗の寺院です。時宗（時衆）は鎌倉時代後期に一遍により開かれた、阿弥陀仏への信仰を中心とする浄土教の宗派の一つで、一遍の業績は『一遍上人絵巻』などで詳細に描かれています。京都においても活発に布教が行われ、やがて次々と時宗の寺院が建立されるようになります。その中でも金光寺は七条道場とも呼ばれ、時宗遊行派の京都での拠点として隆盛を誇りましたが、明治 40 年（1907）に長楽寺に合併され、跡地は民地となりました。

金光寺跡地では、平成 27 年（2015）と平成 30 年（2018）の２回にわたり、発掘調査を実施する機会があり、金光寺に関連する遺構や遺物が見つかり、その変遷や実態の一端を知ることができました。今回は鎌倉時代の京都に建立された寺院の一例として調査成果を紹介します。

なお、今回紹介する金光寺は、下京区本塩竈町に現存する金光寺（市屋道場）とは別の寺院であることを、お断りしておきます。

１．金光寺関連略年表

延応 元年（1239）	一遍、伊予に生まれる
正応 ２年（1289）	一遍、兵庫観音堂にて入寂
正安 ３年（1301）	康弁（運慶の三男）が七条東洞院の宅地（七条仏所）を真教に寄進
嘉元 元年（1303）	金光寺に塔頭六院を建立する
元徳 ２年（1330）	一鎮、金光寺を京都時宗の中心とすることを要請
暦応 ２年（1339）	足利尊氏、金光寺の寺領を安堵する
応安 ５年（1371）	清水寺寺領内の荼毘所を買請ける
応永 ２年（1395）	足利義満、金光寺に七条以南、塩小路以北、東洞院以東、高倉以西の地を寄進する
永享 ３年（1431）	足利義教、金光寺に参詣して踊念仏を見物する
康正 ２年（1456）	金光寺、焼亡
文明 10 年（1478）	足利義政・義尚、金光寺に参詣して踊念仏を見物する
永正 10 年（1513）	後柏原天皇、金光寺に参詣して踊念仏を見物する
永禄 元年（1558）	三好長慶・松永久秀ら金光寺に布陣
天正 19 年（1591）	豊臣秀吉、金光寺に領地をあたえる
元和 元年（1621）	徳川家康、金光寺の寺領を安堵する
享保 13 年（1728）	金光寺境内の火葬料が取り決められる
安政 ５年（1858）	金光寺が類焼
元治 元年（1864）	蛤御門の変　金光寺、焼亡
明治 ４年（1871）	鉄道敷設のため火葬場の合併、撤収
明治 40 年（1907）	金光寺、長楽寺に合併

２．絵画に見る金光寺

- 『上杉本洛中洛外図屏風』（16 世紀中頃）
  「七条のだうぢやう」の書き込み
  瓦葺建物（= 本堂）1 棟・檜皮葺建物１棟・柿葺建物２棟
  建物をつなぐ廊下・仕切りの築地塀
  建物の周りにマツ・ウメなどの樹木
  築地塀で囲まれる　七条通に面する門
- 「境内諸堂建物絵図」天明８年（1788）
  （京都奉行所へ差し出した境内絵図）
  本堂・客殿・庫裏などの建物の配置・間取り
  東部（御土居に接する位置）に火屋・法事場・「供部や」
  北部を中心に９ヶ寺の塔頭
  西部塀際に「衆寮」
  七条通・東洞院通に面して門
- 「金光寺役者普請願書控え」嘉永元年（1848）
  （京都奉行所へ火屋の再建等を願い出た際の絵図）
  建物の配置は天明８年の絵図とほぼ一致
  塔頭の宗哲院がなくなり跡地に表門（仮門）を設置　旧表門は棟門と表記
- 「七条道場金光寺全図」（明治年間）
  境内の面積・区画の寸法を記載
  地価を記載

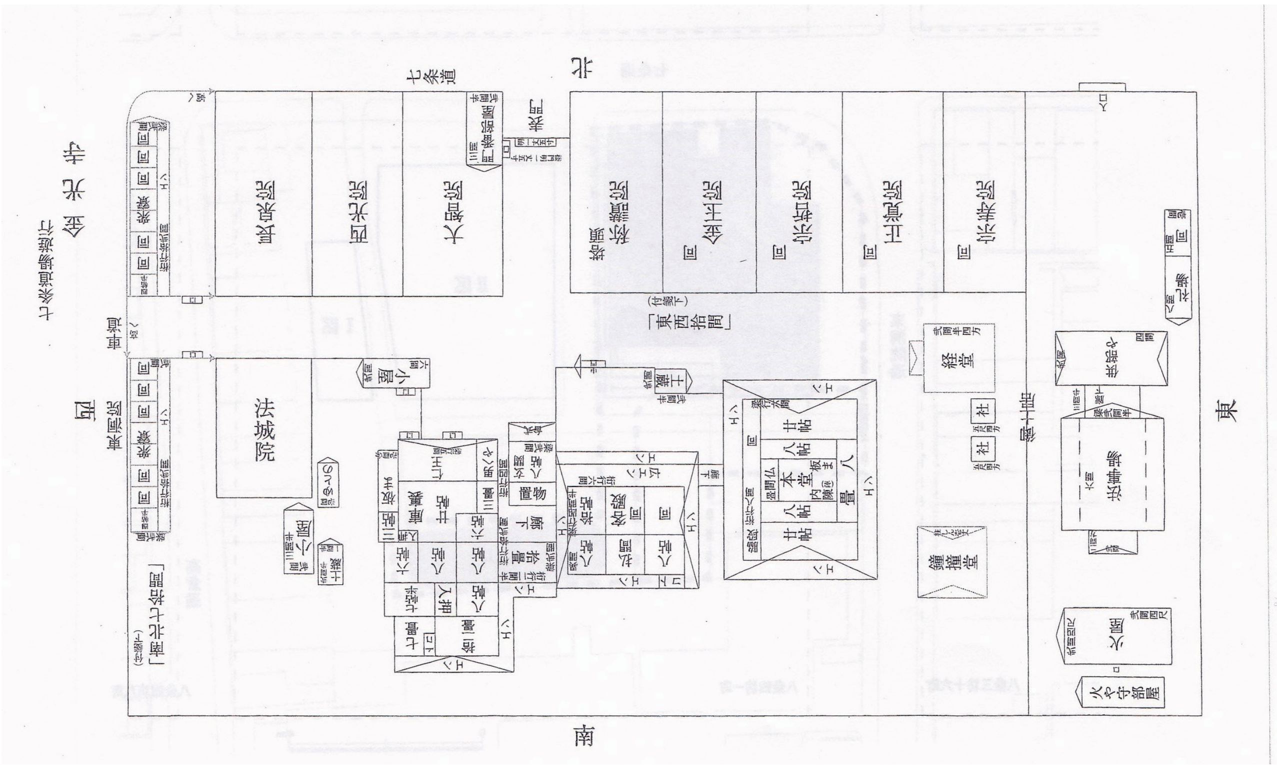

図１　「境内諸堂建物絵図」（村井・大山編　2012）

３．金光寺跡の発掘調査

１）調査の概要

①位置：京都市下京区七条通間之町東入材木町（平安京左京八条四坊一町）

鴨川の主流路西側に立地

調査地東部に接して御土居

調査地の大部分が金光寺境内にあたる

②期間：１区・２区　2015 年５月７日～ 11 月 24 日（約 2,000 ㎡）

３区　　2018 年２月１日～９月 30 日（約 2,000 ㎡）

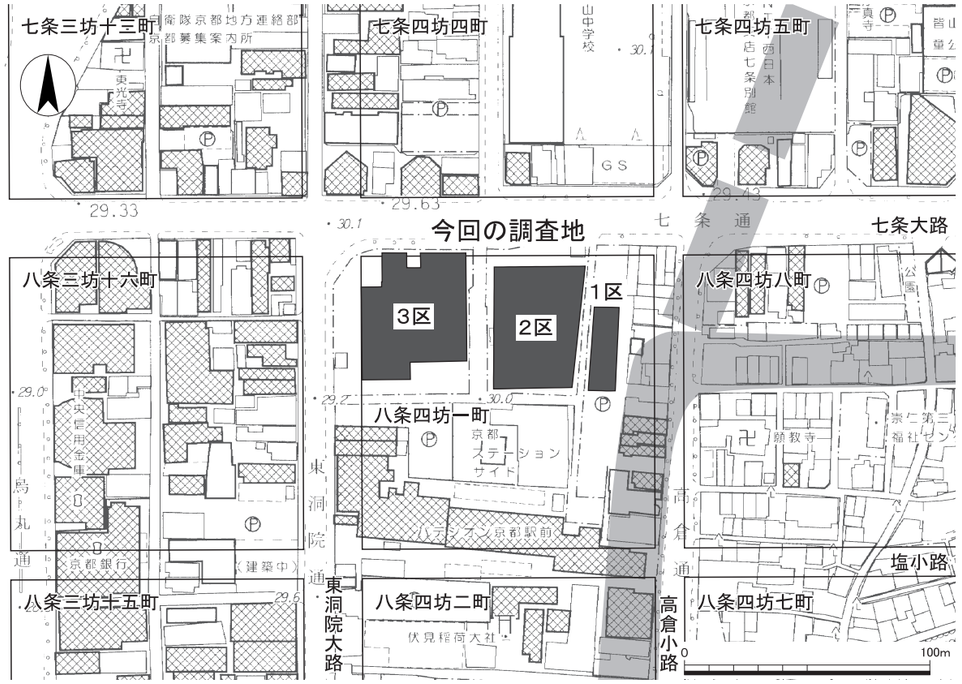

図２　調査地位置図

２）遺跡の変遷

①平安京造営前

鴨川主流路西側の澱み状の流路がひろがる

弥生土器や埴輪が少量出土

古墳時代後期以降、完形の土器やカマド片が出土→近隣に集落があった可能性

②平安時代前期

広い範囲で整地層（条坊制に関連する遺構は未検出）

掘立柱建物・多数の柱穴→七条大路沿いでの居住

③平安時代中期

多数の柱穴・井戸・埋納土坑・集石土坑など→東洞院大路沿いでの居住のひろがり

東西・南北方向に平行・直交する溝群（耕作溝）→一町中央部で耕作

④平安時代後期から鎌倉時代前半

遺構・遺物の急激な増加

平安京左京八条二坊・三坊での動向と一致

調査地全体で 20 ～ 40cm の整地による嵩上げ

七条大路沿いで多数の小型の柱穴

小規模な掘立柱建物が建ち並ぶ

『年中行事絵巻』の景観と一致する景観

東洞院通沿い北部・南部で大規模な甕列

常滑産焼締陶器大甕を密に並べる→酒屋の醸造遺構

手工業生産に関連する遺物

金属生産に関連する遺物

鋳型・坩堝・金属滓が付着した土師器皿・ふいご羽口・炉碧・塼・金属滓

漆の漉し布など

七条仏所（高倉通東側に推定　仏師集団・慶派の拠点）との関連

多量の銅銭

活発な商業活動

焼損した瓦

小規模な瓦葺建物

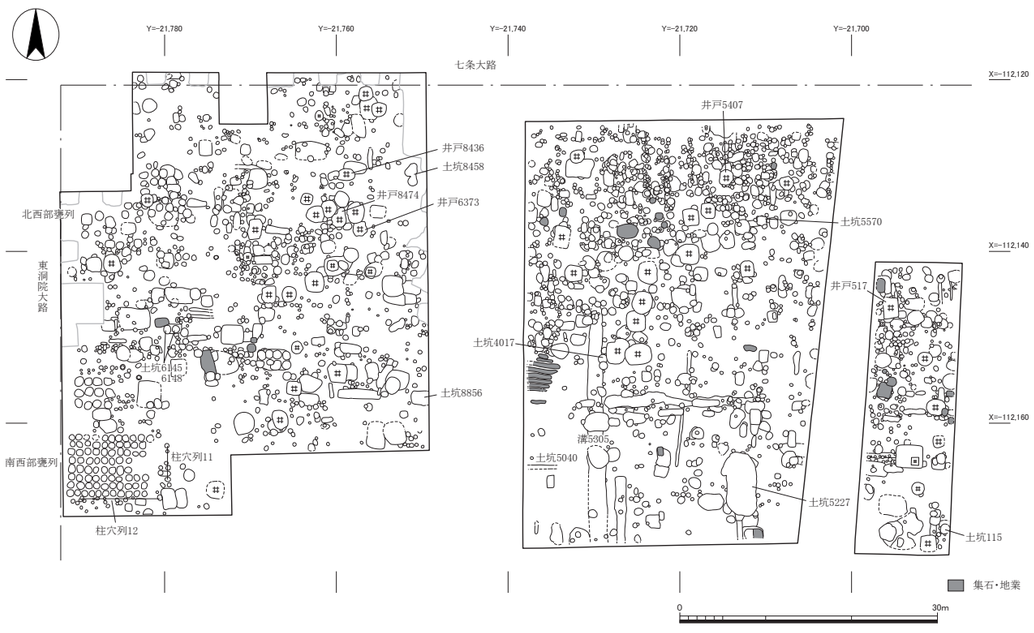

図３　遺構変遷図（平安時代後期から鎌倉時代前半）

図４　３区全景（南東から）

図５　七条大路沿いの柱穴群（西から）

図６　南西部甕倉（北から）

図７　銅銭出土状況（西から）

図８　金属生産に関連する遺物（鋳型・坩堝・ふいご羽口・炉壁など）

⑤鎌倉時代後半から室町時代前期（金光寺創建期）

甕倉の廃絶・焼損した瓦の出土

土地利用に変動

東西中央に方形の基壇建物・掘立柱建物

金光寺本堂の遺構

周辺の地業建物・掘立柱建物やかまど・貯蔵施設など

境内に複数の建物が存在

鎌倉時代後期の軒瓦・室町時代の道具瓦（鬼瓦・雁振瓦・輪違瓦など）

大型の瓦葺き建物

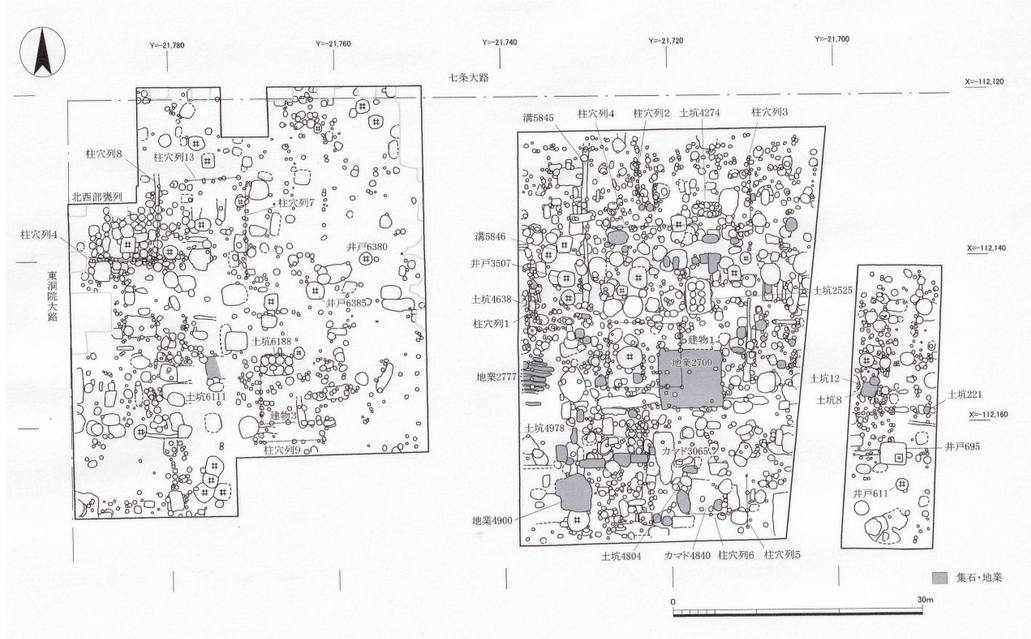

図９　遺構変遷図（鎌倉時代後半から室町時代前期）

⑥室町時代中期から後期

検出遺構の減少←後世の撹乱のため

北西部で洲浜・庭石を備える庭園

視点場は北西側＝塔頭の施設

北西部で東西方向の柱穴列

塔頭南限の区画塀

⑦安土桃山時代から江戸時代

御土居・火屋に関連する遺構は未検出

七条通沿いの東西溝

金光寺境内の区画溝

焼損した多量の瓦

幕末期の２回の火災痕跡

図 10　基壇建物（本堂）（北から）

図 11　建物地業（東から）

図 12　貯蔵施設（西から）

図 13　庭園（東から）

図 14　金光寺の瓦

まとめ

七条東洞院にあった金光寺のようすを遺跡の発掘調査から紹介しました。金光寺の跡地は駐車場やホテルとなり、地上には時宗の大寺院を偲ぶことができる痕跡は残っていません。しかし、金光寺に伝来した古文書や肖像彫刻などの貴重な文化財は現在も長楽寺などに守り伝えられており、遺跡の調査成果と合わせて鎌倉時代の京都に息づいた時宗の信仰と伝統を感じ取っていただければ幸いです。

引用・参考文献

・毛利久「七条道場金光寺と仏師たち」『佛教藝術』59　毎日新聞社　1965 年
・毛利久「長楽寺の時宗肖像彫刻」『佛教藝術』96　毎日新聞社　1974 年
・『洛中洛外図大観』（上杉家本）　小学館　1987 年
・『長楽寺の名宝　特別陳列旧七条道場金光寺開創 700 年記念』京都国立博物館　2000 年
・『平安京跡発掘調査報告　左京八条四坊一町』関西文化財調査会　2004 年
・山本雅和「八条院町の生産」『鎌倉時代の考古学』高志書院　2006 年
・村井康彦・大山喬平編『長楽寺蔵　七条道場金光寺文書の研究』法蔵館　2012 年
・『平安京左京八条四坊一町跡・御土居跡　京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2018-13』2019 年
・山本雅和「平安京左京八条四坊一町の鋳造関連遺物」『鋳造遺跡研究資料 2019』鋳造遺跡研究会　2019 年
・五味文彦編・遊行寺宝物館監修『国宝一遍聖絵の全貌』高志書院　2019 年
・『国宝一遍聖絵と時宗の名宝』京都国立博物館　2019 年